

成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成26年6月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成26年6月24日(火) 開会：午後2時20分 閉会：午後4時30分

会場 成田市役所5階503会議室

出席委員

委員長	秋山 皓一	委員長職務代理者	小川 新太郎
委員	高木 久美子	委員	福田 理絵
教育長	関川 義雄		

出席職員

教育長	関川 義雄 (再掲)		
教育総務部長	深山 芳文	生涯学習部長	藤崎 祐司
教育総務課長	伊藤 和信	学校施設課長	藤崎 宏行
学務課長	柳 鶴 暁	教育指導課長	大竹 誠司
学校給食センター所長	後藤 文郎	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	木川 義夫
図書館長	須賀澤 賢治	生涯学習課課長補佐	木内 悦夫
教育総務課課長補佐(書記)	加瀬林 操		

【会議概要】

1. 委員長開会宣言

2. 教育長報告

主権事業等

○5月29日 校長目標申告教育長面談について

前月にもご報告させていただいたが、校長の今年度の学校経営目標と経営努力点の自己申告である。本市としては何よりも児童生徒の学力の向上を第一としているので、どの学校でもその点を工夫して独自の学力向上策を考えて実践している。具体的な成果をどのように示してい

くか、全国学力状況調査のような数値で表さないとなかなか一般の方々に理解はされ難い状況である。その中で、子どもたちの本当の学力とは何かをしっかりと見つめて、数値だけに振り回されないようにするとともに、基礎基本をしっかりと身につけられるような施策に取り組んでほしいと思っている。

○6月16日 成田市立小中学校不祥事根絶研修会について

今年度当初、印旛管内中学校教頭が飲酒した後、車を運転して、事故を起こしたことにより、懲戒免職処分となった。その後も5月初旬だが、やはり印旛管内小学校教諭が大麻所持容疑で都内で逮捕されるという事件が報じられた。この教諭は容疑を否認し続け、結果的に処分保留で釈放となり、6月13日付の新聞報道では、不起訴処分になったと報じられていた。大麻は自分の所有するものではなく、友人のものということだが、車内にあったことは事実であり、教育公務員の倫理観として、いかがなものかと思う。また、他県ではあるが、校長が覚せい剤所持の現行犯逮捕、あるいは、自分の勤務する学校で、授業中、女子職員のとをつけて女子トイレに入り、スマートフォンで盗撮するという破廉恥行為が発覚した。いずれも、信じられないような不祥事で、こうした不祥事が報じられれば報じられるほど、ますます教育の信頼が損なわれ、多くの職員が懸命になって子どもを育てている現状が理解され難くなってしまう。

そこで、この機に、市内全学校職員、県費負担、市費負担に関わらず、一堂に集めて研修会を行うことにした。当然すべての学校で研修していることではあるが、改めて、全員が一堂に会して研修しなければならないほど事態は深刻であることを少しでも多くの教職員に理解してほしいと実施した次第である。事前に行ったアンケート調査では、この研修会について、「職員を追い詰める研修より気持ちが切り替わる研修を」とか、「これまで数多くのこの種の研修会を実施してきたが、これ以上意味があるのか。やる価値はあるのか、あきらめにも似た感情を覚える。仕事へのやる気も損なわれる。不祥事がなくなることを切に願う」といった意見や、「数人のために真面目に頑張っている他の職員に多大な迷惑が掛かっている。日常的に忙しい現場の上に、このような研修のために時間や労力を奪われ、一層忙しくストレスを増やされている」などと言った声もあった。このことを踏まえての「不祥事根絶研修会」だったわけだが、私からは、不祥事そのものには触れず、目の前の子どもに、丁寧に、きっちり向かい合って、決して投げやりになったりせず、根気よく接してほしいこと、そのために費やした時間は決して無駄にはならず、きっと生きて働く力になってくれるに違いないから、しっかり前を向いて生き

ていくことを心がまえとしてほしい。というような話をさせていただいた。その後、北総教育事務所管理課榊原管理主事に講話をしていただいた。およそ45分間の講話だったが、誰もが納得できる、わかりやすい内容で、本当に良い研修になったのではないかと思った。900名を超える市内教職員を一堂に集めることは容易ではなかったが、気持ちが一段と高められれば幸いであると思っている。

○6月19日 北総教育事務所指導室訪問について

本年度市内の学校では3回目の訪問であり、豊住小学校で実施した。

指導室訪問では、全ての教員が授業を実施し、指導主事の指導を受けることになっている。この日も豊住小の全職員が授業を展開した。豊住小も年々児童数が減少し、現在は全児童数が57名。特に2年生は女子のみの5名。4年生は8名。特に2年生の5名については、一人ひとりが言葉遣いや意見発表の態度、礼儀、発表内容に至るまでなかなか素晴らしい出来で感心した。現在、1年生が11名なので、来年度は新2年と新3年で複式学級になるが、豊住小は今後当分の間、統合はしない方針であるので、少人数であっても効果的な授業の在り方を追求して、独自の良さを出せるように努めていかなければならないと思う。

公開授業後、指導主事とマンツーマンで、展開した授業の内容、その教科の指導の在り方等について指導を受けることになっている。市独自に実施している研修とあまり大きな差異はないように感じるが、県の指導方針や最新の情報など、市教委だけでは十分準備できない内容を教えていただけることに意義があると思っている。この日の指導では、ある指導主事が、授業者に手渡そうとして準備してきたプリントや、事前に授業者から質問のあった事項について、「用意したプリントを置き忘れてきたので、思い出しながら話をする」と話しているのを聞き、非常に残念に思った。この件については翌日、北総教育事務所に伝え、市が要請しているのだから、それにしっかり応えてくれるよう、少なくとも、用意したプリントを忘れることなどないようにしてほしいと、強くお願いした次第である。

○6月23日 北総教育事務所指導室訪問について

公津小学校で実施した。公津小学校は6学級、児童数は147名の学校。現在、特別支援学級の担任が産休中で、講師の先生が入っていたが、もう一人の本務者の先生の影が薄くなるぐらい前面に出て指導をしていたのが印象的だった。また、本校が初任となった若い二人の先生は、一人が4年目、もう一人が3年目の経験となるが、共にとても落ち着いて授業をしており、

指導主事の先生から「良い学級経営をしていますね」と、評価を受けるぐらいに成長しており、大変うれしいことである。これからしばらく大規模な世代交代が続くが、こうして若い先生をしっかりと育てることが大事である。育てられる環境にある学校づくりをしていかなければならないと思った次第である。

市議会

○6月6日～26日 平成26年6月成田市議会定例会について

今議会での教育委員会からの提出議案は、吾妻小学校の西棟大規模改造建築工事の1件のみ。それも、最初の入札が不調に終わったため、当初議案として提出できず、仕様を変更して再度入札を行い、ようやく工事業者が決まったので、この後、26日の議会最終日に追加議案として提出する予定でいる。なお、一般質問では、今回は4人の議員からの質問で、一山議員からは、「小中学生のインターネット依存対策について」、「土曜授業について、本市の考え方と今後の取組について」、「図書館利用の促進を図るための読書通帳の導入について」、また、油田議員からは、「生涯スポーツ振興のためのトリムコースの整備充実について」、「学校体育施設開放の利便性について」、小山議員からは、「ドリームスクールジャンプ21の事業推進についての考え方について」、そして水上議員から、「自転車通学の安全確保についてのうち、通学路の安全対策の進捗状況と今後の対応について」、それぞれ質問があった。今できること、これからやるべきこと、それぞれ明確にして、議会とも連携を密にし、事業の推進を図っていきたい。

○6月18日 教育民生常任委員会

今議会での常任委員会では、教育委員会から提出した議案は、なかったもので、教育総務課から、「学校教育振興基本計画策定事業」について、学校施設課からは「大栄地区統合小学校新築工事基本設計の進め方について」、生涯スポーツ課から「2014年世界サンボ選手権大会の開催について」の報告を行った。議員からは、「大栄地区統合小学校新築工事に関連して、小中一貫教育校として中学校との一体型校舎にするのか」、といった質問が出されたが、「それも視野に入れていく」との答弁をさせていただいた。

その他

○5月28日 千葉県教育委員会による下総みどり学園視察について

これは、各委員の皆様にもご参加いただいたので報告の必要もないと思うが、私も県の教育委員の方々と直接お話しさせていただける機会はなかったもので、この日は大変良い経験をさせ

ていただいたと思っている。授業参観や施設見学、学校経営説明等を通して、私たちの、この新しい形で運営される学校にかける思いが、県教育委員の皆様にも伝わったものと思う。後日、県担当者から、「成田市教育委員会の熱い思いを感じ、有意義な視察となり、感謝している」とのお話をいただいた。また、これは視察とは全く関係ないが、この日、私たちも飲んだ給食の牛乳について、異味がするという生徒の訴えが複数あり、県から、牛乳を提供していた古谷乳業（株）に出荷自粛要請が出る事態となった。しかしながら、私も含め、あの時牛乳を飲んだ県教育委員の皆様、誰も異味を訴える方はいなかった。結果的にこの牛乳の件では、検査しても何の反応もなく、結局はっきりした原因はわからなかったわけだが、同じラインでコーヒー牛乳をつくっているということで、「洗浄が不十分だった可能性がないとはいえない」。という結果となった。

○5月28日 平成26年度千葉県市町村教育委員会連絡協議会定期総会並びに特別講演会について

このことについても全委員さんが出席されているので、私からは特別講演をされた田村学国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官のお話しについて、感想を少し述べたい。内容は、「21世紀型学力を創造する」という題で、その中で、成果の上がる教授法として、OECDが述べている内容。即ち、学んだ内容を生活に応用すること、実践的な体験学習や実験を行うこと、生徒間の相互意見交換を、協力的で自由に行えるようにすること、子どもの自主的な探究活動を取り入れること、といった内容を、学校教育の中で積極的に実施していく必要があると感じた次第である。特に探究学習については、学校でも早くから取り組んでいるが、指導内容が多くなるにつれ、内容の理解を優先させるため、子どもの思考を大切にしたい授業があまり見られなくなっていることを危惧している。先日、テレビでタブレットと、ネットを利用した私立高校の「反転学習」への取り組みを紹介していたが、学校での授業は、生徒の疑問や質問に答えることが中心で、これまで学校で教師が生徒に教えていた内容は、事前に、指導する教師が授業内容を自分でビデオ録画し、これをネットで配信。生徒は前日までにこの内容をタブレットでダウンロードして学習しておき、授業に臨む、という新しい形の授業である。タブレットをコミュニケーションツールの中心にすることは是非はともかく、学習理解、それも生徒の自主的な学習意欲を大切に考えるという点では、注目すべきものだった。これは、この日の講話とは直接関係ないが、本市の教育についても、学力の向

上、とりわけ思考力や判断力、表現力と言った学力の向上を目指していくための、より効果的な具体策が必要だと感じた。

○5月28日 印旛郡市教育委員会連絡協議会教育懇談会について

教育委員としては、この日、三度目の行事だったが、皆さん元気に出席していただいた。各市町の教育委員さんとの懇談は年に2回。この日と、視察研修後の懇談会だけなので、情報交換する中で、様々な話が話題になり、有意義な時間を過ごすことができた。

○5月30日 平成26年度第62回関東高等学校柔道大会について

夏のインターハイに向けて、プレ大会となったこの大会は、この日に開会式を行った後、2日間実施された。参加校は団体戦に、男子62校、女子37校、それだけでも99校となる。個人戦のみの参加もあったので、団体戦は補欠も含めて男子7名、女子5名。ざっと計算して、619名。個人戦参加者を含めると、選手700名規模の大変大きな大会であった。開会式前、入場を待つ選手が館内にあふれ、身動きが取れないほどの状況であった。この日の大会を終え、夏のインターハイに向けて、改善点もいろいろ見つかったと思うので、さらに良い大会となるよう準備を整えていきたい。なお、関東高校の柔道のレベルは高く、昨年の全国一位は、男女とも関東の高校が占めているとのことで、インターハイも期待が持てる。県勢も頑張ってもらいたい。

○6月2日 平成26年度印旛教育会館第1回評議員会について

一般財団法人となった印旛教育会館だが、今年度第1回目の評議員会を開催した。内容は、昨年度の事業報告及び決算の承認に関する件、公益目的支出計画実施報告書の承認に関する件、理事及び監事の選任に関する件の3議案について審議した。一般財団法人となったことで、それまでと比べ、大変複雑で、細かな書類を作成しなければならなくなったり、事業内容についても厳しく審査を受けなければならなくなったりと、その運営については、専門的な知識を必要とするため、適切なアドバイザーを探し、力になっていただいているとのことであった。評議員は、校長会、教頭会、教職員組合印旛支部、印旛地区教育研究会、事務研究部会、退職校長会、房総の会、そして、私が印教連の代表ということで、それぞれ、教育関係者のみの構成となっている。今後も教育会館が健全な使われ方をして、地域の教育に資することができるよう支援したい。

○6月3日 第43回印旛地区小学校陸上競技大会について

印旛管内5地区の代表選手が集まって開かれる、小中体連主催の小学生大会としては、最大規模の大会である。今年も素晴らしい競技が展開された。中でも、6年男子1000メートルと、女子800m走では新記録が樹立された。長距離走での活躍が目立った。とりわけ、6年男子の1000mでの3分1秒という記録は、この年齢ではおそらく限界に近い記録だろうと思われる。100mを18秒で、そのままスピードを落とさず1000m走るということになる。たいしたものだと思う。また、同時に、既に30年近く経過した記録がいまだに破られていないという種目がある。男子走り幅跳びである。これは、5年生の記録が4メートル77、6年生の記録が4メートル98、それぞれ、昭和58年と60年に記録されたままである。おそらくこのあたりがこの種目の限界点なのかもしれない。今回の1000m走もそれに近いものだと思う。

○6月8日 第5回成田空港圏日本語スピーチ大会について

遠く祖国を離れ、慣れない国での生活に不安な気持ちでおられる外国人の方は多い。その不安の第一に挙げられるのが言葉の壁で、言葉の壁は自助努力で乗り越えなければならないが、地域の支援も必要で、現在は、各行政やボランティアの方々のおかげで各種の日本語教室や講座を開いていただいている。こうしたところで支援を受け、日本語を話せるようになった方々のスピーチ大会である。そのため、誰が一番かを競うコンテストではないというのがこの大会の趣旨である。それでも、特に内容が良かったものに優秀、最優秀の賞を贈っている。今年は7か国11名の参加があった。その中で最優秀となったのは、栄町在住の中学2年生の女子生徒だった。7年前に来日し、日本の小学校、中学校を経験しているため、日本語は全く不自由しないとのことだったが、発表の内容には大変前向きに生きていこうとする気持ちがよく表れていて、審査員の心をつかんだ。表彰式には審査委員長の荒井清氏から、参加賞や、特別賞とは全く関係なく、参加者全員に、ご自身が作られた、金子みすずの「みんな違ってみんないい」の色紙が額入りで一人ひとりに贈られ、いただいて涙を流す方もおられ、感動した。第5回目を迎えた大会だが、これで一区切りをつけるとのこと。荒井先生の色紙には、その思いが込められていたのだと思う。毎回、格別のご尽力をいただき、心から感謝の意を表したい。

○6月13日、16日 叙位叙勲伝達について

13日は、学校歯科医でいらっしゃった菊池先生がお亡くなりになり、死亡叙勲をお受けになったため、遺族の方に「瑞宝単光賞」を伝達してきた。菊池先生は、吾妻小学校と吾妻中学

校で30年以上にわたって学校歯科医を続けられてきた方で、歯磨き指導や歯科相談等にも気軽に応じてくださっていた方だとお聞きしている。66歳でお亡くなりになったということだが、まだまだご活躍が期待される年齢ではなかったかと思うと残念である。

16日は、豊住小学校長でご退職された後、本埜村の教育長もお勤めになられた、故芦田謙先生が105歳でお亡くなりになったため、叙位の伝達に行った。お住まいは栄町北辺田であるが、最終在籍校のある市町村が手続きをし、お渡しする決まりになっていて、私が代表してお渡ししてきた。従五位に叙せられた。閑静なお宅には、先生の書き残された書物が山のように残っていて、ご家族もその書類をこれからどうしようかと苦笑されていたが、亡くなる直前まで、毎日、日記のように書き綴った書物は貴重な遺品である。素晴らしい人生を全うされた方として、尊敬の念を覚えた。

○6月14日 平成26年度成田市PTAバレーボール大会について

参加21校、それぞれ、この日のために忙しい中、時間をつくり練習を続けてこられた方ばかりで、参加するだけでも意義のある大会だと思う。いつもは応援する立場のお母さん方がこの日ばかりは子どもたちや教職員から応援され、それぞれ熱の入った盛り上がりのある大会となった。結果は、平成小学校が優勝。準優勝は公津の杜小学校、3位が公津の杜中学校と中台中学校だった。

○6月21日 平成26年度成田市PTA連絡協議会運営研修会・地域教育力向上講演会について

今年も大栄公民館で開催した。開会式後、「子どもたちの安全な環境づくり」、「これが人気！バザーイベント」、「楽しもう！繋がろう！成田市PTA連絡協議会」、「PTA広報誌どう作る？」の4つの分科会に分かれてPTA運営協議会を行った。参加者は各単Pの会長や副会長などの本部役員あるいは、家庭教育学級運営委員等で、それぞれ、各学校のPTA組織のリーダー的存在として活躍されている方々。どの分科会も子どもたちの健全な成長を図るため、自分達のなすべきことは何か、そして課題は何か、活発な議論を展開していた。

そして、この協議の後、地域教育力向上講演会として、講師の先生をお招きしての講演会を行った。今年は、作家の石川結貴氏に「子どもと大人の心を結ぶ地域力」と題してお話をいただいた。昨今のネット文化に対して、子どもたちがどんなに危険な状況にさらされているか、私たち大人はこの現状をどう捉え、どう対応すべきなど、具体的な事例を出して分かりやす

くお話していただいた。学校でも子どもたちに対してネット上に潜む危険性など、学習させる機会はあるが、これからはもっと踏み込んだ指導をしていかないといけないのではないかと、改めて感じた次第である。PTA連絡協議会主催の研修会は、ここ数年、運営研修会と講演会をセットにした形で運営されているが、良い講演を聞くと、今後は役員以外のもっと幅広い層に参加していただける内容で開催できないか、検討しても良いのではないかと思えた。

○6月22日 成田ラグビーフェスティバルについて

午前中は、関東の高校で編成している「スーパーリーグ」の試合として、流通経済大学柏高校と、東京農業大学付属第二高校の試合があった。午後は、ラグビートップリーグの「NTTコミュニケーションズ」と、「クボタ」の2チームの試合が行われた。私は午後の部から参加したが、さすがにトップリーグの選手の試合は迫力があり、圧倒された。ラグビーのトップリーグの試合では、中台競技場のような天然芝が必須とのことで、会場も限られた場所になってくる。成田は駅から近いという立地を生かし、こうしたスポーツのトップ選手の対戦試合を行うことで、多くの観客を呼べる環境にある。ただ、競技場そのものが既に30年以上経過し、老朽化が目につくようになってきた。競技場は利用する人の立場と、それを見る人の立場、双方の立場を十分理解したうえでより良いものに整備していくことも今後の課題であると思う。

○6月23日 社会を明るくする運動成田市推進委員会について

保護司会、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、青少年健全育成協議会等々、各種団体及び成田警察署も含め、関係14団体の代表者が集まって会議を行った。今年の街頭キャンペーンは7月1日（火）午前7時半から、JR成田駅及び京成成田駅周辺で実施する。また、社会を明るくする運動成田市大会は7月13日（日）保健福祉館 多目的ホールで開催される予定で、今年の講演は、アニメ、サザエさんのマスオさんや、それいけ！アンパンマンのジャムおじさん役でおなじみの声優、増岡弘さんが講師として講演して下さる。午後2時受付、2時半開会なので、委員の皆様もお時間があれば是非ご参加をいただきたい。

《教育長報告に対する主な質疑》

委員：印旛地区小学校陸上競技大会における成田市の子どもの成績は、

大竹教育指導課長：上位入場者でいうと、1位が100m年5年男子、80mハードル6年男子、800m6年女子、走り幅跳び5年男子、走り高跳び5年女子で成田市の小学校が1位を獲得している。2位、3位以下もいろいろと入賞はあるが、全体的な印象では、短距離では比較的強いが、それ以外の種目では若干少ないという印象がある。また、今回はリレーでの上位入賞がなくて残念だった。

委員：どんどん活躍する子どもたちが出ると嬉しい。

委員：学校訪問を実施しており、向台小、中台中、遠山小中、加良部小、新山小、橋賀台小、西中に参加したが、小学校の授業では、もう少し児童に探求させる場面がほしいと感じた。具体的には、ある小学校で分数の掛け算をやっている、その中で応用問題があり、その「式」について先生が、「他に考え方の違う人はいますか」といったところ全員が手を上げたのではなく、8割程度が手を上げたが、2割の人は手を上げていないのに、先生が『じゃ、みんな同じだね』とすぐに言った。みんな同じじゃないから手を上げない児童がいるのだから、「では〇〇さんは、どんなふうにやってみたの」と言うとか、やっぱり間違えることも学習の一つだと思う。間違いを大切にしながら、子どもたちが間違えることに対して劣等感を持たない、間違ってもいいんだという雰囲気を作っていくと活発な授業にはならないと思う。そういう点では授業を見ていて教えこむ授業からの脱却を教育委員会としても先生方に考えてもらう必要があるかと思う。また、遠山小学校の校長先生からブランコの本体と鎖のつなぎ目が老朽化して外してあり、子どもたちがブランコを使えない状況になっている。2時間位で直せるので、訪問に同行された学務課長にお願いしたが、その後どうなったか。

柳鶴学務課長：すでに安全対策が施してあり、学校訪問の途中だったので、まだ対応していない。

委員：子どもは毎日使いたいわけで、校長先生の話であり、現場は見えていないが、老朽化した鎖部分の修理だけで本体を掘り起こしてやるような修繕ではないので早くお願い

したい。

関川教育長：校長から報告はなかったのか。

柳鶴学務課長：校長からは、学校施設課に連絡はしてあると伺っている。

委員：子どもが使いたがっているわけなので早めの修理をお願いしたい。

委員長：6月16日に実施した不祥事根絶研修会について、40分の講話があったとのことだがどのような内容だったのか。

柳鶴学務課長：不祥事について、これまでどのような事案があったのか、それに対する影響はどのようなところまで及ぼすかといったところをお話しいただいた。

そのうえで、事前に県内の不祥事事例3件を取り上げて、職員がどのように感じているかなどのアンケート調査を行い、その調査結果を基に、「参加者に思いを述べていただく」参加型の研修会をしていただいた。

関川教育長：事前のアンケートを基にして、何人かの参加者に直接思いを語ってもらうということも取り入れて研修会を行いました。

委員長：教育長報告では、職員を追い詰めるような研修ではなく、もっと気分転換が図れるような研修ということだったが。

関川教育長：事前のアンケートでは、そのような記載をしたが、このような研修会をやるという意図が多分アンケートでは分からなかったと思っている。どうしても批判的になってしまった教員も中にはおり、研修を始める前から「やっても意味がないとか、くだらない研修」だとか思っている方もいたようだが、それは最初から承知の上で行ったので、意味がない研修かどうかは参加してから考えるものだと思っている。

私も研修をやったから不祥事がなくなるとは思っていないし、今まで何度もやっているが不祥事はなくなっていないので、効果がないといえないのかもしれないが、職員の意識を高める時間を作っていないといけないと考えている。また、学校を一つのチームとしてそういう思いを持っていただければ不祥事がなくなっていくのではないかと、もっと子供に目を向けて、そっちに夢中になっていただければ不祥事なんか起こさなくてすむのではないかという思いで今回の研修会を行った次第です。

柳鶴学務課長：研修会の冒頭、講師の先生から謝罪というか申しわけないという思いを述べていただいた。というのは、今回の印旛管内での不祥事案は新規採用職員が一か月経過したところで、このような大麻所持をしていたという案件、あるいは管理職の立場にある職員が不祥事を起こしたということから、任免権を有する人事担当者の思いが込められた話があり、その上で具体的な研修に入っていた。これまでの一方的な研修会とは違う形でスタートしたところがある。

委員：関連して、今回あってはならない不祥事がまた起こったわけで、しかも管理職が起こしてしまった。私が聞いた話では、一つは「何であの先生があんなことを起こしたのか、全く予想外だった」と、ところがあるところでは「いつかは起こすんじゃないかと思っていた」と言っている先生もいる。北総教育事務所ではどのように分析しているのか、教育事務所は調査をしているわけだから、飲酒運転は絶対やってはいけないことで、やってはいけないことをやったわけだから、どうしてやってしまったのか、その時だけ乗ったのか、それとも今までも繰り返していたのか、その辺の分析は、教育事務所ではやっていないのか。

柳鶴学務課長：そこまでの情報提供はないが、過去においてそのような可能性というか形跡があるとすれば、このような事態にはなっていないので、現時点ではそのようなことはないと考えている。

委員：その辺の分析をきちんと行わないとまた繰り返されると思う。

柳鶴学務課長：市内では、そのようなことがないように実態把握に努めてまいります。

議 長：この研修が本当に身に付く研修であればと思います

3.議 事

(1) 議 案

(議案第1号から議案第6号まで成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

- ・議案第1号：成田市教育委員会会議規則第22条第1項第5号該当
- ・議案第2号、議案第3号、議案第6号：同規則同条同項第1号該当
- ・議案第4号、議案第5号：同規則同条同項第4号該当

<これより非公開>

議案第1号 平成27年度使用教科用図書の選定について

《審議結果》

可 決

議案第2号 成田市社会教育委員の委嘱について

《審議結果》

承 認

議案第3号 成田市公民館運営審議会委員の委嘱について

《審議結果》

承 認

議案第4号 工事請負契約の締結について

《審議結果》

可 決

議案第5号 成田市スポーツ広場の設置及び管理に関する条例の一部を改正するについて

《審議結果》

可 決

議案第6号 成田市教育事務評価委員の委嘱について

《審議結果》

承 認

<非公開を解く>

(2) 報告事項

報告第1号 平成26年度就学援助にかかる当初認定件数について

【柳鶴学務課長 資料に基づき報告】

(要旨)

6月9日現在、生活扶助の対象となっている、要保護児童生徒は41名、内訳は小学校18名・中学校23名、準要保護児童生徒は642名、内訳は小学校376名、中学校266名を認定いた。本市の認定数の割合は、おおよそ6.38%。昨年度の認定状況は、年度末全体で790名、内訳は小学校439名、中学校351名。これは、年度当初の当初認定からその年度途中で認定事務を行っていることから前年度と比較して大きな違いはない。

最後に、平成26年度より消費税の増税に伴い国の要保護児童生徒援助費補助金の単価が改

正されたことを受け、「成田市就学援助費支給規則」における援助費の支給額を改定することを検討している。支給額の改定にあたっては、規則の改正が必要となるため、市長部局関係各課、財政課・総務課と調整し、今年度当初から改定後の単価で支給できるように進めたいと考えており、改めて、規則改正の議案として願います。

《報告第1号に関する主な質疑》

委員：6.38%という割合だが、他の市町村と比較して水準的にはどうか、また、申請を却下された方がいるがその理由、また、どの程度の援助費が支出されているのか、例えば学用品費などが支払われているが、年間でどの位、支払われているのか。

柳鶴学務課長：他市と比較した場合の成田市の水準については、準要保護については本市独自の事業のために、一律に他市と比較するのは難しいと考えている。次に、却下理由については、基本的には認定に当たり収入を基本として審査しているので、基準額よりも収入が多い場合は却下せざるを得ない。就学援助を受けるには、申請をしていただき、審査、認定をするというスタンスのため、若干却下数が増えることについては、ある意味やむを得ない。次に就学援助費の内容については、学用品費は、支給額が小学校で11,100円、中学校で21,700円、通学用品費は2,230円、新入学児童生徒学用品費が小学生が19,900円、中学生が22,900円、校外活動費で宿泊を伴わないもので、小学生が1,510円中学生は2,180円、宿泊を伴う場合は、小学生は3,470円、中学生が5,840円、また、クラブ活動費、これは成田市独自のもので、小学生は1,270円、中学生が13,250円、その他修学旅行費はそれぞれ実費相当額を支給している。学校給食費や学校の健康診断で発見された疾病についての医療費についても実費相当額を支給している。

関川教育長：小学校の場合は、ほとんどお金はかからないようになっている。

委員長：総額では、かなりの金額ですね、

関川教育長：給食費などは、かなり大きいと思う。

委員：クラブ活動は、どんな活動でも出るのか。

柳鶴学務課長：学校で行っているクラブ活動であれば対象になる。

委員：お金のかからないクラブ活動に入った場合は。

柳鶴学務課長：あくまでも部活動に必要な経費として、用品費や遠征費などを支出している。

委員：平成20年度の認定数が561名だったものが、平成22年から700名を超えてきている理由は。

柳鶴学務課長：経済状況の悪化、あるいは就学援助制度そのものの理解や周知活動が進んだことなどが考えられる。外国の方に対しても適用できるので、現在5か国語のパンフレットを作っており、それらの方にも対応が出来ている。また、ひとり親家庭が増えていることも要因であると分析している。

関川教育長：平成26年度認定率6.38%は、年度当初のものなので年度末になると昨年並みになると思われる。

委員：平成25年と26年を比較すると100名程度少ないが。

柳鶴学務課長：平成26年度は、年度当初の数字なので年度途中には増え、年度末には、ほぼ同じくらいになると思われる。

報告第2号 2014年世界サンゴ選手権大会の開催について

【大矢生涯スポーツ課長 資料に基づき報告】

(要旨)

この大会の主催者は、国際サンボ連盟、日本サンボ連盟で、中台運動公園体育館を会場に、本年、11月21日から23日の3日間で開催を予定しており、約70か国より選手、役員が約800名集まる。また、成田市で開催することから、日本サンボ連盟及び成田市関係者で組織する「2014年世界サンボ選手権大会実行委員会」を5月14日に設立し、名誉会長に「小泉成田市長」、会長に「近藤日本サンボ連盟会長」が就任した。この世界大会は、サンボを国技とするロシア並びにその関係国周辺で開催してきたが、本年が「日露武道交流年」となったことから、その記念事業の一つとして、世界サンボ選手権大会を日本で開催することとなった。

国体などの開催実績があり、交通や、宿泊などの利便性が良い成田市に決定したものである。サンボ競技には、「スポーツサンボ」と「コンバットサンボ」の種目があり、「スポーツサンボ」では、投げ技・関節技・抑え込みなどのポイントで勝敗を決し、また、「コンバットサンボ」は、スポーツサンボに打撃技を加えた競技である。本市としては、この世界大会に全面的な協力体制を築いて進めてまいりたい。

《報告第2号に関する主な質疑》

委員：成田市の競技人口は。

大矢生涯スポーツ課長：調べてはいないが、ほぼゼロに近いと思われる。

委員：ウクライナ問題があるが、開催は大丈夫か。

大矢生涯スポーツ課長：そのような問題もあるが、日本サンボ連盟では開催の方向で準備を進めている。今年は、日露武道交流年という事で、外務省が日露間の交流事業を進めており、最近では5月に山下泰裕柔道教室ということでサンクトペテルブルクで教室を開催したり、ロシアから日本へ来ていただき剣道や空手大会を開催しているとのこと

で、その一つが世界サンボ選手権大会であり、日露武道交流年における30の事業の一つとして外務省が認定しているので開催されると考えている。

委員長：参加人員800名ということで、結構大がかりな事業です。

大矢生涯スポーツ課長：参考までに昨年の開催は、サンクトペテルブルクで開催し72か国が参加し、そのうち38の国と地域が欧州地域ということでアジアからは7か国参加している。このようなことから今年も多くの地域の方が日本に来られるのではないかと推測している。

(3) その他

- ・学校教育振興基本計画策定について

【伊藤教育総務課長による報告】

(要旨)

平成27年度に学校教育長期ビジョンの計画期間が終了となることから、学校教育振興基本計画策定事業を平成26・27年度と進めているが、本年度、実施するアンケート調査については、前回の教育委員会会議で協議いただき、本日の内容で、学校には配布させていただいた。このアンケートは夏休み前までに回収し、9月末ぐらいには報告書としてまとめたいと考えている。

今後の策定事業の進め方等については、まず、本計画は、「教育基本法第17条第2項」に基づく「地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として策定するものとし、次に、上位計画と整合性については、市も県も、国が定めた「教育振興基本計画」を参酌することが求められており、また、県が今年度策定する、千葉県教育振興基本計画「教育立県ちば」プランを考慮するほか、同時期に策定する本市の総合計画は、本計画の上位計画となるので、市の政策等との整合性も図っていくことになる。次に、今回策定する計画の範囲は、学校教育を基本としていくが、学校教育に密接に関連する生涯学習等の施策については、本計画のなかでも位置付けをしていく。次に、策定体制については、本年度、教育長を委員長として、内部組織として「学校教育振興基本計画策定庁内委員会」と、実務作業を行うための

作業部会を設置した。この委員会等の中で、課題や論点を整理し基礎となる案を作成し、今後、設置する学識経験者や学校教育関係者からなる計画策定委員会での協議のほか、中学校区ごとの10地区で開催するワークショップや、フォーラム、パブリックコメントなどを通じて市民の意見を伺いながら、計画策定の作業を進めていきたい。また、教育委員会会議においても、その都度、協議・報告をさせていただきながらすすめていきたい。

次に、「策定スケジュール」については、本年度は、児童生徒・保護者・教職員を対象としたアンケート調査のほか、現状把握の調査を実施し、その後、現状と課題の整理を行い、基本方針等の案を作成していく。次に平成27年度は、年度当初に中学校区ごとに、10回のワークショップを開催する。児童・生徒や教職員、保護者や地域住民の方々に参加していただき、直接、様々なご意見を伺う。また、来年度は学識経験者や学校教育関係者からなる計画策定委員会を設置し、現状に対する意見や、基本方針などについても検討をいただく。さらに、教育フォーラムを開催し、基調講演を行うとともに、計画素案を作成して、パブリックコメントを実施する。平成27年度末までに内容を確定し、計画を策定していくが、教育委員会会議へは、協議・報告、最終的には議案として提出させていただきたい。

- ・大栄地区小学校統合推進委員会だよりについて

【伊藤教育総務課長による報告】

(要旨)

6月15日の区長回覧で、「大栄地区小学校統合推進委員会だより」を大栄地区に回覧した。内容は、これまで3回開催した推進委員会の会議内容についてであり、結論として、「この委員会の中で、小学校と中学校の施設一体型の小中一貫教育を目指すという方向性が確認された」という内容となっている。

- ・大栄地区統合小学校新築工事基本設計の進め方について

【藤崎学校施設課長による報告】

(要旨)

大栄地区統合小学校新築工事基本設計業務委託については、既に打合せなど業務を開始しており、スケジュールは5月23日から平成27年3月20日まで。この基本設計業務は、大き

く、現況測量、学校建設の基本的な計画を検討する基本計画、校舎の概略を設計する基本設計の3工程に分かれており、現在は測量などの現地調査と基本計画に着手している。基本計画業務は、これまでの校舎新築の際には実施していなかったが、大栄統合小学校の新築については、整備構想案で大栄中学校の敷地に建設することは示していたが、大栄中学校の敷地に高低差が大きいことや小中連携など、配置計画を考える上での条件整理が必要であることから、今回の基本設計業務の中に基本計画業務を加えた。基本計画の進め方については、学校規模を決定する各種教室・部屋などの基本的データを精査すると共に、中学校校舎との位置関係、小中グラウンドやスクールバスの乗降場、一般駐車場や職員駐車場の配置を検討していく。なお、大栄地区においても小中一貫教育を目指すことが確認された中で、学校については小学校と中学校を施設一体型の校舎として建設するという方向性が示されたことから、基本計画では、施設一体型の校舎を基本に、敷地内の土地利用のプランについて比較資料を作成し、教育委員会内部での検討を加えていく。さらに推進委員会での理解と同意を得て、統合小学校の建設方針としてまとめ、本定例会において報告したいと考えている。

- ・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正の概要について

【伊藤教育総務課長による報告】

(要旨)

大津市のいじめ問題に端を発し、教育委員会制度の見直しが行われ「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正案が6月13日の参議院本会議で可決成立した。本制度により、教育委員長と教育長を一本化し新たに新教育長を置き、首長と教育委員会から構成される総合教育会議を設置することになる。施行は平成27年4月1日。その趣旨は、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携の強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図るため、地方教育行政制度の改革を行うことである。概要における責任の明確化については、教育委員長と教育長を一本化した新たな責任者、新教育長を置くことになり、任命については、首長が議会の同意を得て直接任命する。今までは、議会の同意を得て教育委員として任命され、教育委員会において教育長を選出し教育委員会が任命していたものが直接首長が任命することになる。罷免についてはもともと教育委員としての罷免はあるが、教育長としての任命、罷免が

首長により行われることになる。また、教育長については、任期は3年となり、これは、首長の任期が4年になっているので、首長の任期中に必ず1回は教育長の任免が出来るようにという事で3年となった。

次に、総合教育会議の設置については、首長は総合教育会議を設ける、会議は首長が招集し、首長、教育委員会により構成されるとなっている。また、この会議においては教育委員会と協議し「教育基本法第17条」に規定する基本的な方針を参酌して、教育の進行に関する施策の大綱を制定することになっている。首長の権限は、これまでに比べて非常に大きくなるものと思われるが、法律の趣旨として、これまでどおり教育の政治的中立性、継続性、安定性を保つということなので、教科書採択や教員人事など教育委員会の専権事項についてはこれまで通り維持される。

次に、国の地方公共団体への関与の見直しについては、大津市のいじめの事件があったことが基になっているが、いじめによる自殺の防止など緊急性がある場合に、文部科学大臣が教育委員会に対して指示が出来ることを明確にしている。文部科学大臣が教育委員会に対して指示をすることが出来るという規定はもともとあったものだが、「児童生徒等の生命または身体への被害の拡大又は発生を防止する緊急の必要がある場合」に指示をするということをあらためて明文化したものである。その他、会議の議事録の作成と公表に努めることも規定されている。

施行については、法律の施行日は平成27年4月1日としているが、「現在の教育長の委員としての任期までは従前の例により在職する」とされているため、本市の場合は平成27年9月30日まで教育長の任期があることから、それ以降、新制度に切り替わることになる。

・平成26年度全国高等学校総合体育大会について

【大矢生涯スポーツ課長による報告】

(要旨)

平成26年度全国高等学校総合体育大会が、南関東4都県で、開催され、成田市では、柔道競技、少林寺拳法競技の2種目が開催される。

柔道競技が、8月2日(土)から6日(水)、少林寺拳法競技が、8月8日(金)から10日(日)の期間で行われる。この競技の大会役員として、委員各位に委嘱したいと存じますので、就任について御承諾をお願いする。

4.委員長閉会宣言